

2013年8月13日 全5頁

Indicators Update

6月機械受注

4-6月期は前期比+6.8%と増加、非製造業の改善には一服感も

経済調査部
エコノミスト 齋藤勉

[要約]

- 2013年6月の機械受注統計によると、国内設備投資の先行指標である民需（船舶・電力を除く）は、前月比▲2.7%と2ヶ月ぶりに減少したが、市場コンセンサス（同▲7.0%）を上回った。この結果、4-6月期の民需（除く船舶・電力）は前期比+6.8%と5四半期ぶりの増加となった。
- 需要者別の内訳を見ると、製造業は前月比+2.4%と2ヶ月連続の増加、非製造業（船舶・電力を除く）は前月比▲17.5%と2ヶ月ぶりの減少となった。製造業では、「電気機械」や「自動車・同付属品」の増加が全体を押し上げた。非製造業では前月からの反動減に加えて、増加が続いていた「建設業」や「卸売業・小売業」が減少に転じている。
- 外需は前月比▲16.7%と2ヶ月ぶりに減少した。外需はこのところ振れ幅の大きい動きが続いている。しかし、機械輸出の動向を見ると、堅調な動きが続く米国向けに加えて、中国向けでも底入れの兆しが見られていることなどから、今後も外需の増加が続く見込みである。
- 機械受注は、改善の動きが続いているものと判断できる。内閣府公表の7-9月期見通しでは、民需（除く船舶・電力）は前期比▲5.3%と2四半期ぶりの減少が見込まれているが、この数字は7月～9月にそれぞれ前月比▲3.3%の減少で達成できるため、達成の可能性は高い。また、7月～9月にそれぞれ前月比▲0.6%の減少で推移した場合、2四半期連続の増加となる。大和総研では、7-9月期の機械受注は2四半期連続の増加となる可能性が高いとみている。

図表1：機械受注の概況（季節調整済み前月比、%）

	2012年						2013年					
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
民需（船舶を除く）	1.7	▲1.0	▲2.4	▲0.8	3.8	▲1.3	▲7.5	4.2	14.2	▲8.8	10.5	▲2.7
コンセンサス												▲7.0
DIR予想												▲3.5
製造業	6.1	▲6.2	▲3.0	▲2.7	1.8	1.0	▲10.0	4.9	13.3	▲7.3	3.8	2.4
非製造業（船舶を除く）	▲1.8	2.3	0.8	2.7	6.4	▲7.8	▲4.5	0.3	14.3	▲6.0	25.4	▲17.5
外需	0.1	▲12.1	3.6	0.5	11.8	▲8.3	▲3.7	1.0	52.1	▲19.9	10.3	▲16.7

（注）コンセンサスはBloomberg。

（出所）内閣府統計、Bloombergより大和総研作成

6月の機械受注は小幅減少

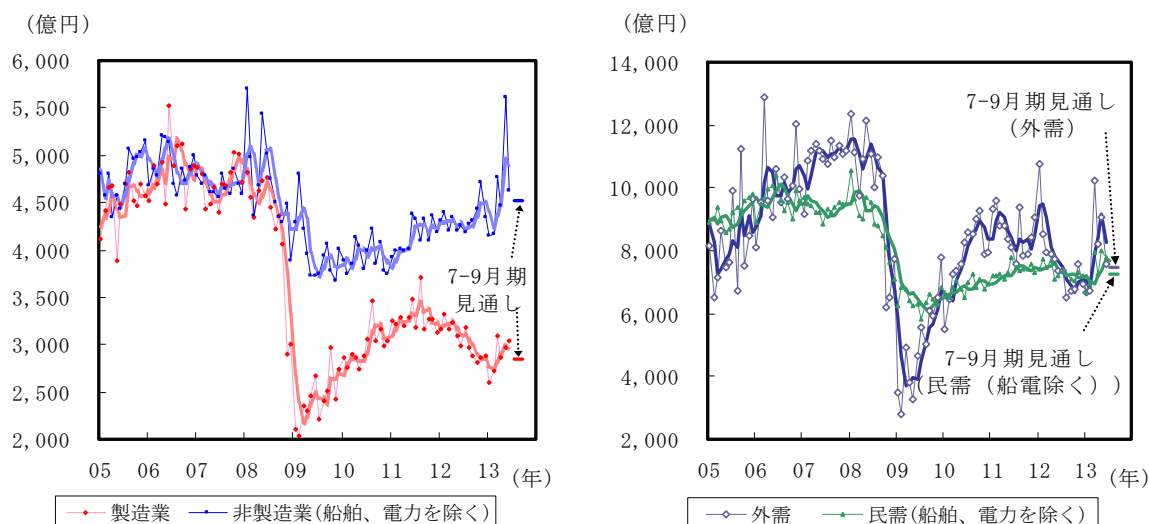
2013年6月の機械受注統計によると、国内設備投資の先行指標である民需（船舶・電力を除く）は、前月比▲2.7%と2ヶ月ぶりに減少したが、市場コンセンサス（同▲7.0%）を上回った。この結果、4-6月期の民需（除く船舶・電力）は前期比+6.8%と5四半期ぶりの増加となった。

製造業は2ヶ月連続の増加、非製造業は前月からの反動減で減少

需要者別に内訳を見ると、製造業は前月比+2.4%と2ヶ月連続の増加であった。「電気機械」が同+39.8%、「自動車・同付属品」が同+13.8%と増加し、全体を押し上げた。一方で、「一般機械」や「化学工業」は前月大幅に増加した反動で減少している。

非製造業（船舶・電力を除く）は前月比▲17.5%と2ヶ月ぶりに減少した。これは「金融業・保険業」と「運輸業・郵便業」が大幅に減少したことが主因であるが、どちらも前月の大幅増加の反動であるため、今月の結果は数字ほど悪いものでは無い。ただし、「建設業」が9ヶ月ぶり、「卸売業・小売業」が6ヶ月ぶりにそれぞれ減少に転じていることはネガティブな要因である。その他の業種でも減少が多く見られており、このところ幅広い業種で増加が続いてきた非製造業からの機械受注は、改善傾向が一服した格好だ。

図表2：需要者別機械受注



(注1) 太線は3ヶ月移動平均線。

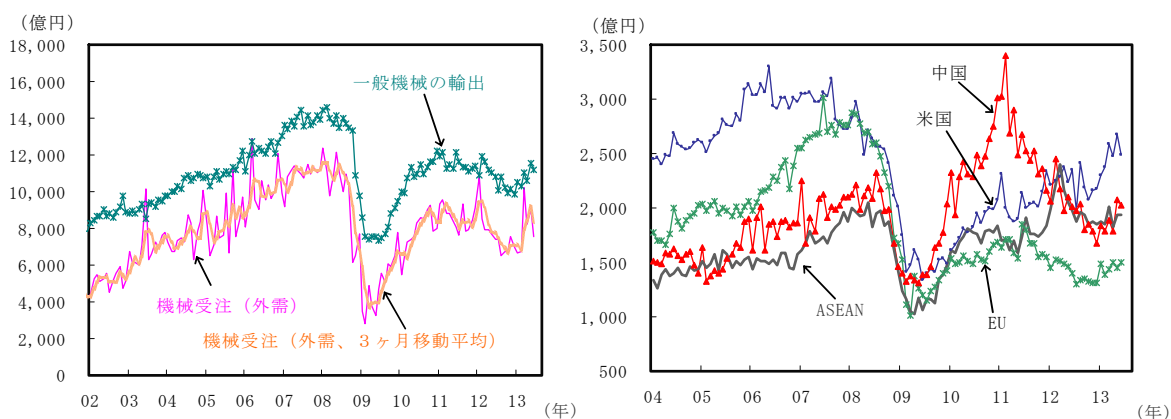
(注2) 機種別受注額の季節調整は大和総研。3ヶ月移動平均値。

(出所) 内閣府統計より大和総研作成

外需も2ヶ月ぶりの減少

外需は前月比▲16.7%と2ヶ月ぶりに減少した。外需はこのところ振れ幅の大きい動きが続いている。しかし、機械輸出の動向を見ると、堅調な動きが続く米国向けに加えて、中国向けでも底入れの兆しが見られていることなどから、今後も外需の増加が続く見込みである。

図表 3：一般機械の輸出と機械受注の外需 図表 4：一般機械の輸出金額（主要国・地域）



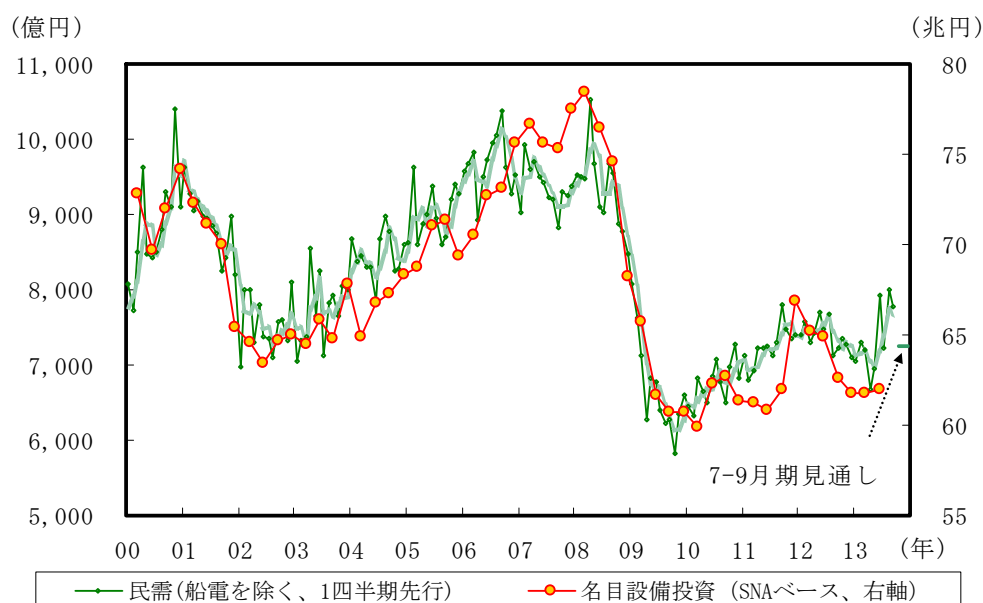
(注) 輸出金額の季節調整は大和総研。
(出所) 内閣府、財務省統計より大和総研作成

内閣府の見通しでは7-9月期の減少が示されたが、2四半期連続増加の可能性も高い

以上を総括すると、機械受注は、改善の動きが続いているものと判断できる。内閣府公表の7-9月期見通しでは、民需（除く船舶・電力）は前期比▲5.3%と2四半期ぶりの減少が見込まれているが、この数字は7月～9月にそれぞれ前月比▲3.3%の減少で達成できるため、達成の可能性は高い。また、7月～9月にそれぞれ前月比▲0.6%の減少で推移した場合、2四半期連続の増加となる。大和総研では、7-9月期の機械受注は2四半期連続の増加となる可能性が高いとみている。ただし、前述のように非製造業で改善の動きに一服感も見られることから、今後は製造業の設備投資の動向がポイントになると考えている。

なお、機械受注の動きはGDPベースの設備投資に3ヶ月ほど先行する傾向がある。4-6月期の設備投資は前期比▲0.1%と6四半期連続の減少となったが、7-9月期には増加に転じる見込みである。

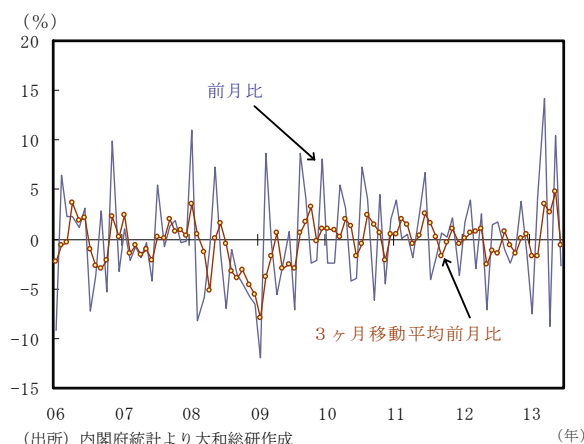
図表 5：機械受注の民需と名目設備投資（季節調整値）



(注) 太線は3ヶ月移動平均線。
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

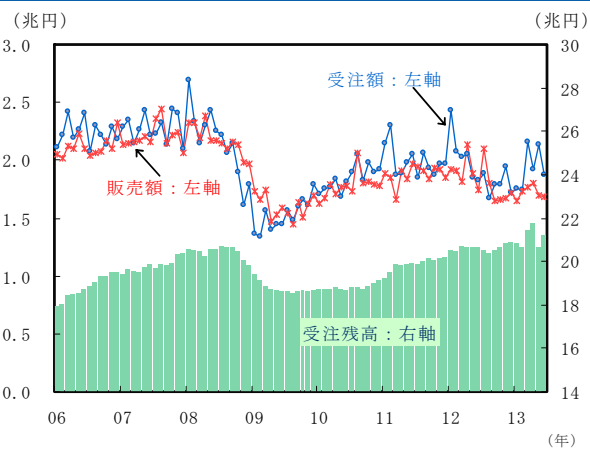
概況

民需（船舶・電力を除く、季節調整済み前月比）

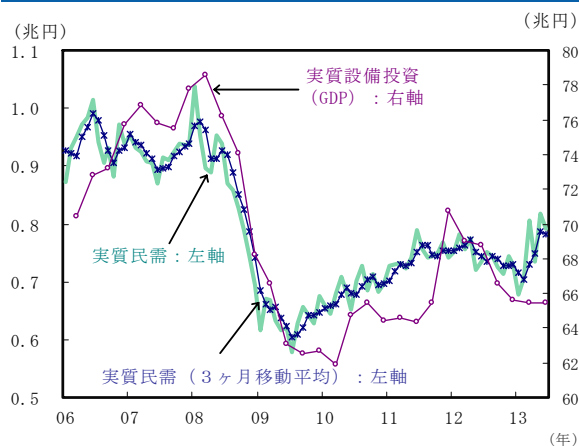


(出所) 内閣府統計より大和総研作成

船舶を除く合計（季節調整値）

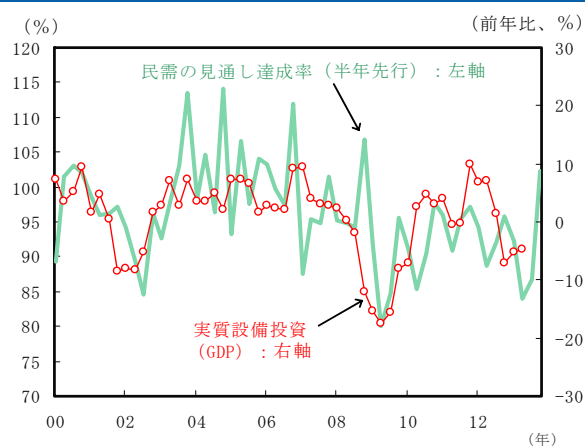


実質機械受注と実質設備投資（季節調整値）

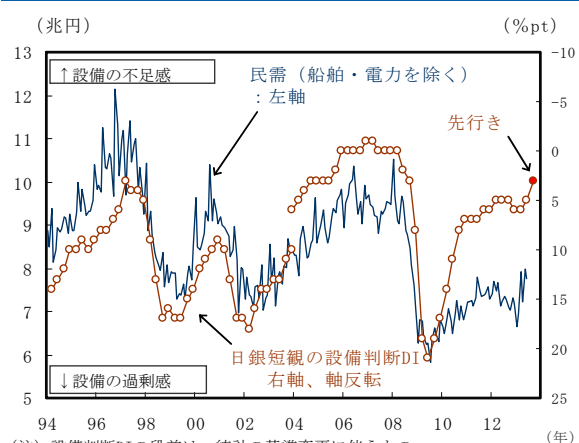


(注) 実質民需は、船舶・電力を除くベースで、企業物価指数（日本銀行）の国内資本財によって実質化。
 (出所) 内閣府、日本銀行統計より大和総研作成

民需（船舶・電力除く）の達成率と実質設備投資

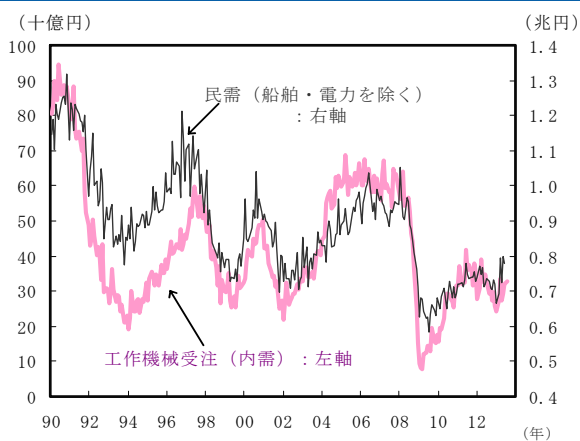


機械受注（季節調整値）と設備判断DI



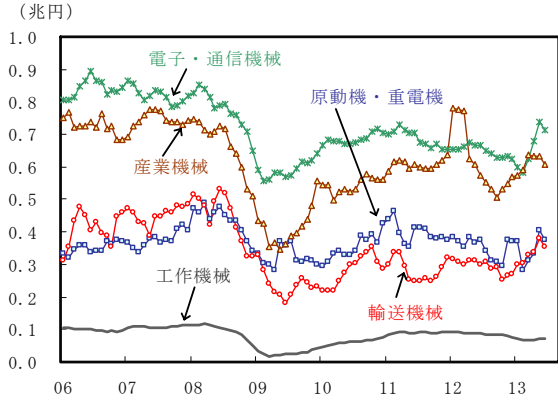
(注) 設備判断DIの段差は、統計の基準変更に伴うもの。
 (出所) 内閣府、日本銀行、日本工作機械工業会統計より大和総研作成

機械受注と工作機械受注



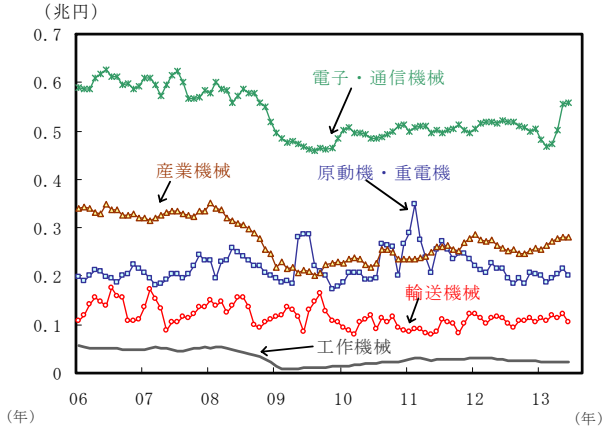
機種別と製造業・非製造業の動向

機種別・大分類の受注額（季節調整値）

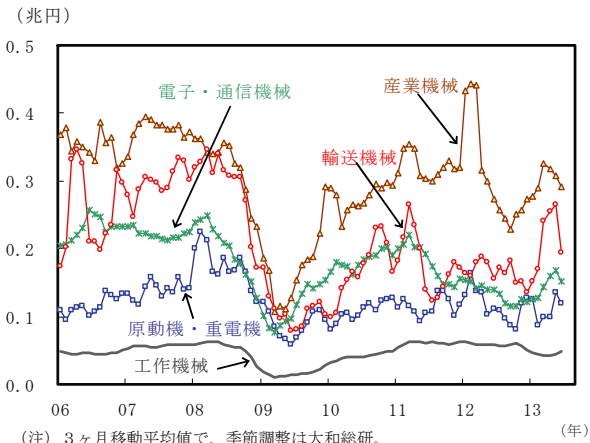


(注) 3ヶ月移動平均値で、季節調整は大和総研。
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

機種別・大分類の受注額【内需】（季節調整値）

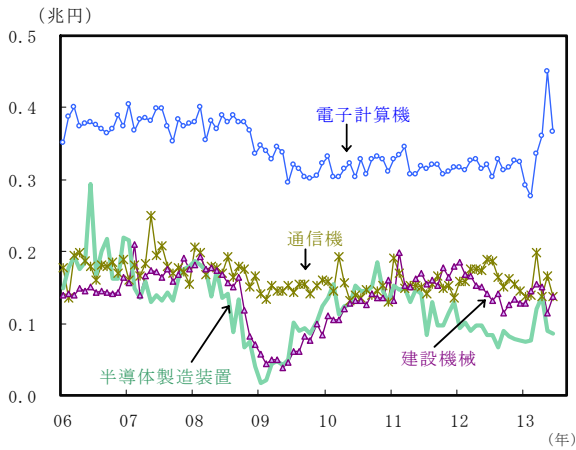


機種別・大分類の受注額【外需】（季節調整値）

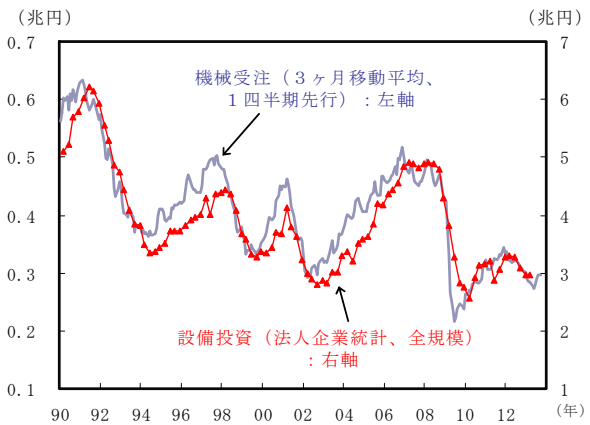


(注) 3ヶ月移動平均値で、季節調整は大和総研。
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

機種別・主な中分類の受注額（季節調整値）



機械受注と設備投資【製造業】（季節調整値）



(注) 設備投資の季節調整は大和総研。
(出所) 内閣府、財務省統計より大和総研作成

機械受注と設備投資【非製造業】（季節調整値）

